

# 新たな再造林の手引きの概要 ～島根の森林資源をより豊かにする～

## (1) 背景

- スギ・ヒノキを中心とした人工林の多くが利用期を迎え、人工林の主伐が増加する中、伐採跡地の確実な再生は必須。
- 造林の現場では、適地適木にそぐわない樹種選択を行っている事例も散見される。
- 長引く木材価格の低迷により山元への還元が少なく、再造林経費がほとんど出ない事例もみられる。

## (2) 目的

- 植栽地に適した樹種選定を行うことにより、成長不良等のリスクを回避し、確実な再造林を推進する。
- 植栽経費の低コスト化により、森林経営に係る経費の低減を図る。

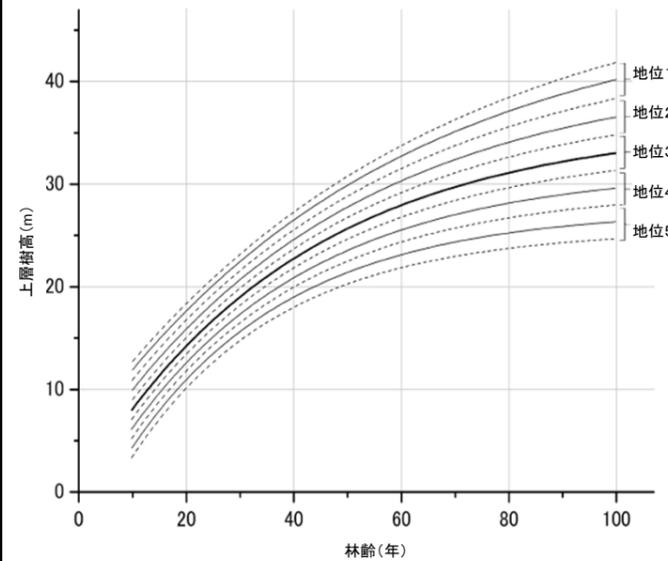
## (3) 内容

### ① 植栽樹種の選定（適地適木の徹底）

植栽木の生育はその後の収益性に大きく影響することから植栽地に適した樹種の選定手順について記載。

#### 【地位】—ステップ1—

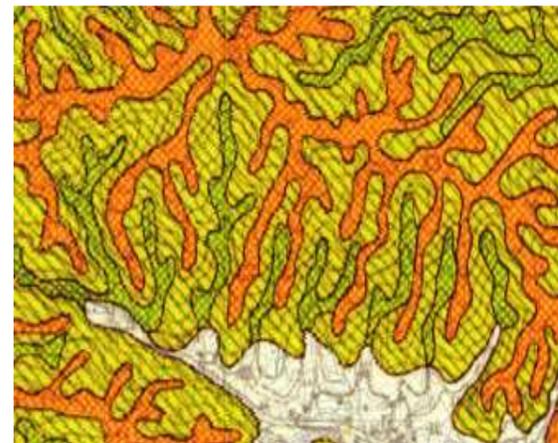
伐採前の人工林の成長状態による判断



地位別上層樹高曲線(スギ)

#### 【土壌】—ステップ2—

土壌型による判断



島根県森林情報システムに掲載している土壌図

### ② 低コスト再造林

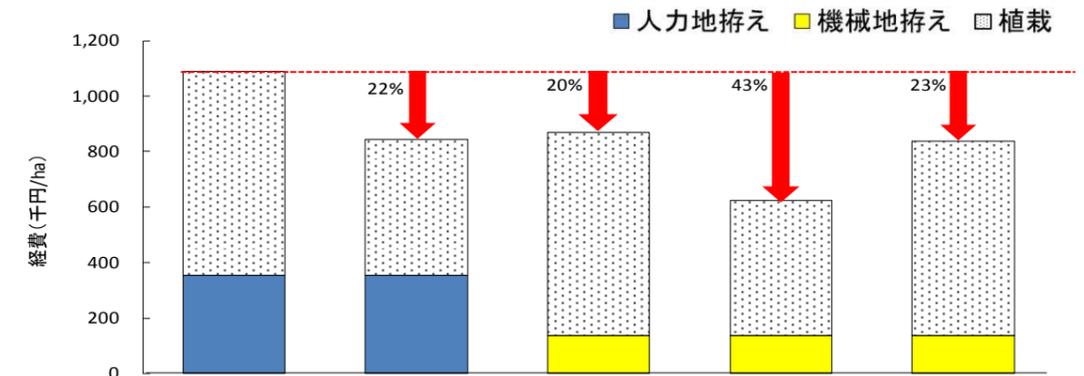
生産目標の考え方、苗木の選択、植栽から育林に関する低コスト作業内容とコスト削減効果を記載。

### <苗木の選択>

- ・植栽作業を省力化でき、通年での植栽が可能なコンテナ苗の活用。  
\* コンテナ苗の率先利用(国有林、治山事業)
- ・成長に優れる精英樹や気象害に抵抗性がある気象害抵抗性品種などから採種穂された優良苗木を選択。

### <植栽・育林経費の低コスト化>

- (低密度植栽)  
・従来一般的に行われてきた植栽密度3,000本/haを1,000~2,000本/haの低密度で植栽することによる苗木代や植え付け労務費、将来の間伐経費の低減。
- (一貫作業)  
・伐採と植栽を連続して行うことによる地拵え経費の低減。  
・通年植栽が可能なコンテナ苗の活用と併せた労務低減と分散、初回下刈りの省略。



		従来作業 (普通苗)	低密度植栽 (普通苗)	一貫作業 (普通苗)	一貫作業+ 低密度植栽 (普通苗)	一貫作業+ 低密度植栽 (コンテナ苗)
植栽本数(本/ha)		3,000	2,000	3,000	2,000	2,000
地拵え	方法	人力	人力	機械	機械	機械
	経費 (千円/ha)	355(100)	355(100)	136(38)	136(38)	136(38)
植栽	経費 (千円/ha)	732(100)	487(66)	732(100)	487(66)	702(96)
合計	経費 (千円/ha)	1,087(100)	842(78)	868(80)	623(57)	838(77)

※括弧内の数値は従来作業を100とした場合の値

植栽方法の違いによる経費試算

### ③ 早生樹の植栽

- ・早生樹：植栽後の樹高成長が早く、伐期までの材積成長量大きい樹種。
- ・近年の木質バイオマス発電用の燃料需要の高まりなど、木材の用途が多様化する中で全国的に注目（コウヨウザン、センダン、ヤナギ等）。  
\* 島根県においてもコウヨウザンの早期導入を検討中（センダンは導入済）。